

8-2

口腔ケア

施設内研修

誤嚥性肺炎予防のための取り組み

毎日みんなでむすんで、ひらいて、舌だして ～嚥下体操～

特別養護老人ホーム 栄光の杜

発表者：介護職員 野口祐介

共同研究者：山口英樹

所在地：東京都西多摩郡日の出町平井3052番地

TEL：042-596-1536

E-mail：info@eikounomori.or.jp

FAX：042-597-1920

URL：http://www.eikounomori.or.jp/

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

平成8年開設。特別養護老人ホーム、長期入所100床、短期入所4床、計104床。居宅支援事業所併設。「その人らしく生活が送れるように支援する」を理念とし、職員一人一人が利用者のより充実した生活を目指している。

〈取り組んだ課題〉

- ・事業計画としての誤嚥性肺炎予防の策定と誤嚥性肺炎予防の具体的な予防措置の調査と策定を行う。
- ・誤嚥性肺炎予防のための口腔体操を実施する。
- ・口腔体操全員習得と食べることへの意識向上のための施設内研修を実施する。
- ・他職種連携による嚥下困難者の抽出を行う。

〈具体的な取り組み〉

- ・平成19年度の誤嚥性肺炎または肺炎で入院された利用者が20名と多く、施設として取り組む課題であるとの認識を強め、平成20年度の事業計画として誤嚥性肺炎予防を行っていく事を決定し、担当者を選出した。
- ・誤嚥性肺炎予防のためへの口腔ケアの方法を担当者数人で書籍やインターネットを通じて調べ、当施設に合わせたものにアレンジし、それを口腔体操として常勤・非常勤問わず、施設内研修を行い、毎日、各階に2名職員を配置し、昼食前に行う。さらにレクリエーションにも積極的に取り入れていった。
- ・施設内研修では口腔体操の実施方法の研修だけでなく、食べることの意義、食事介助の方法、口腔ケアの重要性を再度認識してもらうため資料を作成し、合わせて行った。

- ・医務との連携により、嚥下困難者の抽出を行い、困難者にはチェック表を作成し、実行したかの確認を行った。
- ・認知症や麻痺の問題により、口腔体操が思うように行えない利用者のフォローとして顔のマッサージ（主に唾液腺）も昼食前の時間に同時に行っていた。

〈活動の成果と評価〉

- ・誤嚥性肺炎での入院者が半分以上の8名まで減少。
- ・今まで肺炎での入院に対して後手にまわってしまっていたが、積極的に予防していこうという意識が全体に生まれた。
- ・食事介助の姿勢に「急ぐ」という意識が薄れ、嚥下に注意しながら余裕を持って介助を行うという姿勢に変化していった。
- ・全体的な嚥下困難者の把握や利用者の嚥下レベルの把握ができた事により職員の食事時の見守り、口腔ケアへの取り組み方への姿勢が変化した。
- ・食事形態やトロミの検討・対応の迅速化が図れた。

〈今後の課題〉

- ・継続的な口腔体操の実施と口腔ケアへの意識付けを行う。
- ・予防方法の体操以外の方法の模索をしていく。
- ・全体の口腔体操だけでなく、利用者個々の嚥下状態に因る体操、マッサージ、口腔ケアの提供を医務や歯科医と連携し、行っていく。
- ・予防をしつつ、「おいしく、安全に食べていただく」事への意識のレベルアップを図る。

【メモ欄】